

研究指定校名 : 鳥取市立中ノ郷中学校

1. 学校の概要

学校名	鳥取市立中ノ郷中学校
学級数	15学級（うち特別支援学級：3学級）
児童生徒数	全生徒数：380人（令和2年1月1日現在）
URL	http://cmsweb2.torikyo.ed.jp/nakanogo-j/

2. 調査研究のテーマ

(1) 調査研究のテーマ

学び合いを通して協働的実践力の育成を図る

(2) 調査研究のテーマを設定した背景

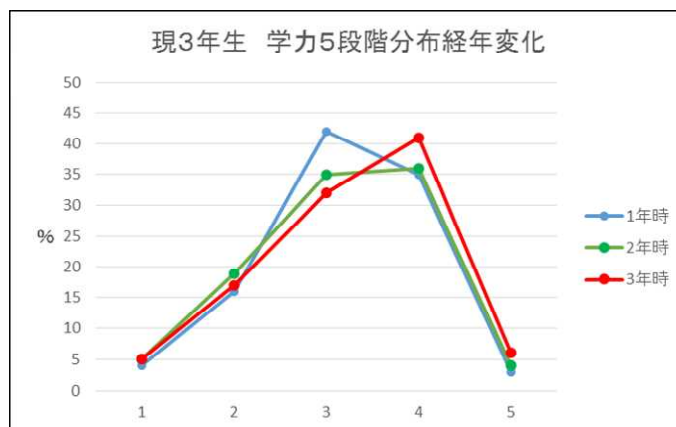
本校生徒のよさはたくさんあるが、その中でも「積極的に人とのかかわりを求める生徒が多い」と感じる。そのため、授業においてペアやグループ学習を好む生徒も多く、授業アンケートの感想にもよかった点としてあげられている。また、参観日や研究授業などの場面では、自分たちのよさを見てもらおうとはりきって学習に臨む生徒も多く、学びが活性化する。これらの現状をふまえ、生徒のよさや強みを活かしながら「生徒主体・生徒同士で創り上げる学習活動」を推進したいと考え実践してきた。

また、創立当初から大切にしてきた本校の中心価値である「信頼と自主行動は我らの願い」を学習にも活かすために、「生徒を前面に出す場面」や「学び合いの場面」を意図的に設定し、研究の柱として推進してきた。

これらの実態を踏まえ、本校では、3年前から「学び合いを通して確かな学力を育み、生徒とともに創り上げる学習活動」をテーマとして研究を続け、生徒同士の学び合いに重点を置き、また、教科会や学び合い研究会などによる職員同士の切磋琢磨を活性化させることで、生徒の学習意欲向上に成果を挙げた。3年間の「学び合い」を中心とする研究から「グループ形態」「思考ツール」「グループ共有グッズ」などの様々なアイデアを蓄積でき、生徒の学び合いが活性化されたことは間違いない。

しかしながら、「学力の二極化」「学力低位層の停滞」「学力高位層の伸び悩み」などの課題が根強く残っていることが浮き彫りになってきた。標準学力検査データを検証したところ、現3年生の学力5段階分布経年変化に注目してみると、低位（5段階で1や2）の生徒の割合に大きな変化が見られない。（右図：標準学力検査データより現3年生の学力5段階分布経年変化を参照）本校の研究の柱である「学び合い」は「学力低位の生徒」を伸ばす方策として最良のものだと仮定していたこともあり、学力低位の生徒の学力向上に成果が出ていないという事実は、本校の研究を根本的に見直す必要性を示唆している。今行っている「学び合い」は形だけの「学び合い」になっているだけで、真のねらいとする「学び合い」ができていないのではないかと問い直す必要がある。

形式的な学び合いではなく、有意義な学び合いにする土台には生徒同士の人間関係づくりが最も大切だと考える。安心して自分の考えを表現できる、人権意識の高い集団であることが「学び合い」の質の向上には不可欠である。学習中の様々な「学び合い」をはじめ、学校行事や生徒会活動などの学校教育全般を通して、一人ひとりを大切にする活動を基盤として協働的実践力を育み、学力及び自己有用感の向上につなげるべく今回の調査研究のテーマ設定をした。

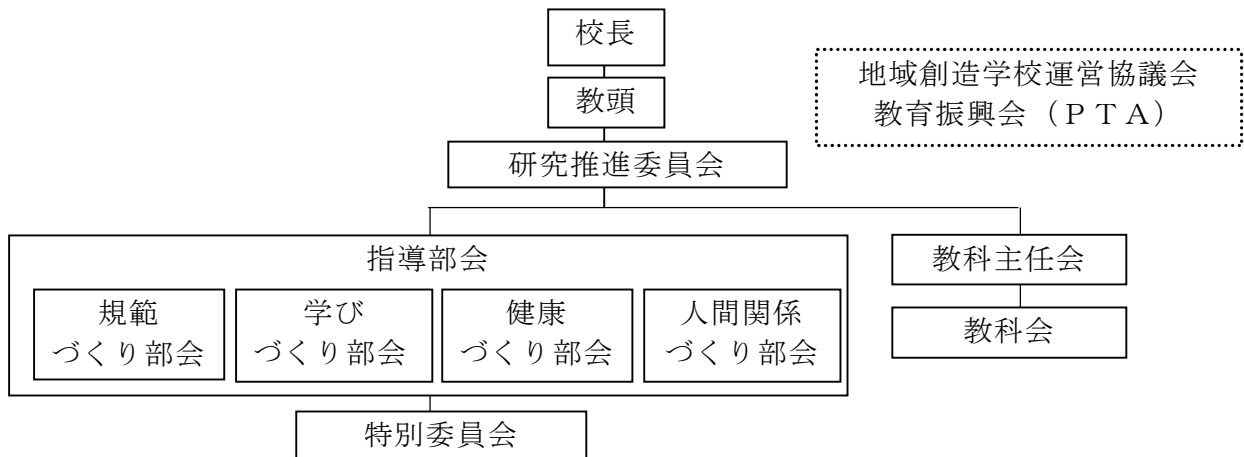


(3) 取り組んだ人権課題（該当するものに○印。複数選択可）

①女性	
②子供	○
③高齢者	

④障害者	
⑤同和問題	
⑥アイヌの人々	
⑦外国人	
⑧HIV感染者・ハンセン病患者等	○
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	
⑪インターネットによる人権侵害	○
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬いじめ	○
⑭性的指向、性自認	
⑮その他 ()	

3. 調査研究の推進体制



(関係協力機関) ○鳥取県教育委員会 ○鳥取市教育委員会

4. 調査研究の内容等

(1) 調査研究の内容等

(現状の分析と課題)

平成30年度の授業アンケートのⅠ期(7月)とⅡ期(12月)の比較より、「先生の授業は生徒同士で意見を交わしたり、教え合うような活動的な場面がある」の項目の「当てはまる」と肯定的評価をした生徒の割合が約2%向上している。(「よく当てはまる」という肯定的評価は4%向上している。)この結果より、教師が積極的に授業に学び合いを取り入れていることがわかる。全体として、肯定的評価が80%を越える高い水準であり、学び合いの取組を継続して行うことができていると言える。(以下の表を参照)

授業アンケート「先生の授業は、生徒同士で意見を交わしたり、教え合うような活動的な場面がある」				
	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
7月	49%	36%	10%	5%
	85%		15%	
12月	53%	34%	9%	4%
	87%		13%	

それに対して、授業アンケート「先生の授業はよくわかる」の項目の「当てはまる」と肯定的評価をした生徒の割合が約1%減少している。しかしながら、基本的には80%を越える高い水準であるので、その点で考えると「学び合う」授業づくりが生徒の「わかる」を導き出している成果だと考えられる。(以下の表を参照)

授業アンケート「先生の授業はよくわかる」				
	よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	全く当てはまらない
7月	47%	41%	9%	3%
	88%		12%	
12月	48%	39%	10%	3%
	87%		13%	

しかしながら、「学び合う場面」への肯定的評価が2%向上したのに対して「授業がわかる」が1%減少してしまったことから、有意な「学び合い」ができていないかを今一度見直す必要があると考える。形式だけの「学び合い」からの脱却が必要である。

(調査研究の内容)

- 学び合いに主体的に取り組む生徒の育成
学び合いが、生徒一人ひとりの能力を最大限に発揮できる場面づくり
- 様々な集団内で協働的に取り組む生徒の育成
問題解決的な学習・アウトプットの工夫
授業の枠をこえて（総合・生徒会活動・異校種間連携・地域連携）
- 人権基盤の構築
一人ひとりの認め合い・高め合い・自己有用感の向上のしかけ

(実施方法)

- 「教科会」の充実
各教科の教員が放課後や授業の空き時間等を利用して集まり、調査研究内容に関する生徒の実態に基づいて、教科授業実践等についての協議を実施した。（週1回）
- 「教科授業研究会」の実施
調査研究内容に関する生徒の実態に基づいて、教科ごとに授業研究会を計画し、事前協議（指導案検討会）、公開授業、事後研究会を実施した。（各教科1回）
- 「アクティブプラン」の作成および活用
調査研究内容に関する生徒の実態に基づいて、実践計画、実施状況の把握、実施結果についての評価および改善策等を記載する「アクティブプラン」を各指導部会および各教科で作成し、調査研究内容についての共通理解及び協働的教育実践の充実に活用した。
- 「学び合い」研修会
定例職員会議後に行う15分程度のミニ研修会として、教科や学年団を解いた4～5名の小グループで実施した。調査研究内容に関する生徒の実態に基づいて研究主任がテーマを設定し、意見交換や協議を行った。（月1回）
- 授業参観週間
授業実践力の向上を目的として、相互に授業を参観し合う週間を設定し、参観者は「気づきシート」（簡易な授業参観の記録用紙）に参観授業についての気づきや学びを記入し、授業者に提出した。調査研究内容に基づき、参観の視点を「学び合い」と「わかる授業」として実施した。（年3回）
- 校内研究会の実施（2回）
講師を召喚し、7月（3年社会科）と12月（2年英語科）に実施した。調査研究内容に基づき、「学び合い」に主体的・協働的に取り組む力の育成をめざすと共に、7月の研究会では「ユニバーサルデザインの視点に立った授業」をテーマに、12月の研究会では「すべての生徒が『わかる』『できる』『表現する』を目指す授業」をテーマに、公開授業および授業研究会を行った。
- 「授業アンケート」の実施・分析
7月と12月に実施。マークシート方式のアンケート用紙（共通設問9問）を、各教科の授業の中で生徒に配布し、記入させて回収した。結果を集計し、教科授業に対する生徒の意識

を教科会で分析し、授業改善に活用した。

- 「Q-U調査」（楽しい学校生活を送るためのアンケート）の実施・分析
5月と10月に実施した。生徒一人ひとりについての理解と対応方法、学級集団の状態等をとらえ、学級経営、教科授業等に活かすことを目的に調査・分析を行った。
- 「いじめと心のアンケート」の実施・分析
毎月、学級ごとに行う「いじめ」に関するアンケートを実施し、いじめの未然防止、早期対応、生徒の実態や変容の把握に活用した。
- 生徒会による「スマイル学級会」「スマイル集会」の実施
6月（「鳥取市スマイル月間」）にいじめ防止啓発のための生徒会活動を実施した。生徒会執行部が中心となり、いじめのない学級づくりをめざして、寸劇による啓発活動や学級での話し合いを行った。各学級でいじめ撲滅に向けた学級目標「スマイル宣言」を作成した。
- 指導部会（学びづくり部、人間関係づくり部、規範づくり部、健康づくり部）の連携
調査研究内容に基づき、研究の実践と目標達成に向けて、各指導部会の活動内容を明確にすると共に、相互に連携を図りながら各部会の実践に取り組んだ。
- 生徒の自治を活かした「学び合い」活動の推進（総合、生徒会活動 等）
教科授業のみならず、総合的な学習の時間、特別活動（生徒会活動）においても、「学び合い」活動を位置づけ、生徒の主体性および協働的実践力の育成を図った。
- メディア講演会、WYSH教育等の実施
講演会等を通じて、SNSによるネットいじめの問題、エイズの理解について学び、人権意識の高揚を図った。
- レッドリボンサークルによる啓発活動
HIV感染症・エイズへの差別・偏見の解消、予防啓発を目的に、世界エイズデー街頭キャンペーンや文化祭での展示による啓発活動などに有志が取り組んだ。

（検証・評価・普及）

生徒の変容（成長）について、Q-U調査（5月、10月）および、授業アンケート（7月、12月）で検証・評価を行った。

①「Q-U調査」の結果より

<学級満足度尺度>（令和元年11月）※（ ）は5月実施

	学校平均	全国平均
学級生活満足群	56%（55%）	41%
非承認群	16%（16%）	18%
侵害行為認知群	9%（11%）	13%
学級生活不満足群	18%（18%）	28%

（分析）

「学級生活満足群」

- ・全国平均と比べて15%上回っている。

「非承認群」

- ・直接的な被害は受けていないが、自分が周りに認められていないと感じている生徒が各学級5人程度見られる。

「侵害行為認知群」

- ・5月に比べて減少している。各学年、学級でルールへの定着が見られ、落ち着いた学校生活を送れる生徒が増えていると思われる。

「学級生活不満足群」

- ・全国平均と比べて10%下回っているが、要支援群の生徒が各学級6人程度あることを示している。適切な手立てを行っていくことが重要である。

<学校生活意欲プロフィール>（令和元年11月）※（ ）は5月実施

	学校平均	全国平均
友人との関係	18.0%（18.0%）	17.3%

学習意欲	15.5% (15.9%)	15.3%
教師との関係	14.7% (15.0%)	14.5%
学級との関係	16.1% (16.1%)	15.7%
進路意識	15.1% (15.4%)	14.7%
総合	79.4% (80.3%)	77.5%

(分析)

- ・すべての項目において、全国平均よりも上回っている。
- ・特に、「友人との関係」「学級との関係」の項目が高く、日頃の仲間づくり活動、生徒会活動、学級活動、学校行事など、良好な人間関係が築けていると考えられる。
- ・「学習意欲」「進路意識」は、5月調査に比べて10月調査では、3年生は上昇しているが、1・2年生が下がっている。これは、3年生は卒業後の進路に向けて意識が高まるのに対し、1・2年生は、学習内容が難しくなる等の要因で、モチベーションが低下する生徒が増える傾向にあるためと考えられる。

②「授業アンケート」の結果より

※上段は、A+Bの数値

<今年度12月と昨年度12月の肯定的回答(3年生・%)>

()は、Aの数値

	国語		社会		数学		理科		英語	
	今年	昨年	今年	昨年	今年	昨年	今年	昨年	今年	昨年
授業はたのしい。	94 (68)	88 (46)	95 (68)	90 (52)	74 (31)	79 (31)	99 (89)	98 (83)	98 (83)	99 (75)
授業はよくわかる。	95 (68)	91 (50)	99 (83)	88 (47)	83 (38)	77 (34)	99 (85)	99 (82)	98 (81)	99 (72)
「教え合い」活動がある。	97 (83)	98 (63)	91 (66)	62 (32)	90 (58)	81 (36)	98 (85)	100 (86)	98 (84)	98 (83)
先生は一人ひとりの生徒をよく見ている。	99 (79)	93 (57)	97 (78)	90 (50)	82 (56)	81 (37)	98 (84)	98 (77)	98 (84)	99 (75)
授業がわかりやすくなるように工夫されている。	98 (79)	94 (61)	97 (81)	91 (53)	86 (51)	83 (41)	99 (92)	98 (87)	98 (88)	98 (82)

アンケート選択肢：A「当てはまる」 B「やや当てはまる」 C「やや当てはまらない」 D「当てはまらない」

(分析)

- ・ほとんどの項目において、肯定的回答の割合が昨年度よりも上回った。
- ・特に、肯定的評価のうちの「当てはまる」の数値の向上が見られる。
- ・「教え合い」活動の肯定的評価の向上率が高く、各教科で「学び合い」を積極的に行っていることがうかがえる。
- ・「先生は一人ひとりの生徒をよく見ている」「授業がわかりやすくなるように工夫されている」の肯定的評価の向上率も高く、生徒と教員の信頼関係がより高まったと考えられる。

(2) 実施結果

時期	内容	備考
4月1日	・研究推進委員会(今年度の取組について)	参加者8人
4月3日	・校内研修会(今年度の取組について共通理解)	参加者全教職員
5月	※いじめと心のアンケート ・規範づくり部会(いじめと心のアンケート分析)	参加者6人
5月8日	※第1回Q-U調査 ・第1回「人権教育研究推進事業」連絡協議会	
5月16日	・研究推進委員会(各分掌の進捗状況の確認)	参加者8人
6月	※いじめと心のアンケート ・規範づくり部会(いじめと心のアンケート分析)	参加者6人
6月12日	・研究推進委員会(各分掌の進捗状況の確認)	参加者8人
6月19日	・「スマイル学級会」「スマイル集会」	全校生徒
7月	※第1回学校評価アンケート ※授業アンケート・6項目アンケート	

7月1～12日 7月16日	※いじめと心のアンケート ・規範づくり部会（いじめと心のアンケート分析） ・授業参観週間（互いに授業公開し研究を深める） ・第1回校内授業研究会（3年社会科） 外部講師：元明星大学発達支援研究センター 京極澄子氏 鳥取県教育委員会人権教育課 西垣卓宏 係長 鳥取県教育委員会東部教育局 平野靖博 社会教育主事 鳥取市教育委員会学校教育課 松本 晃 指導主事 1年メディア講演会	参加者6人 全教職員 参加者全教職員、県教委2人、市教委1人、校区小学校教員3人
7月17日 7月23日 ” 8月7日 8月20日 9月	※いじめと心のアンケート ・規範づくり部会（いじめと心のアンケート分析） ・研究推進委員会（アンケート結果について） ・校内研修会（アンケート結果の共通理解）	対象：1年生徒122人 参加者全教職員 参加者全教職員 参加者8人 参加者全教職員
9月10日 9月17日～27日 10月	※いじめと心のアンケート ・規範づくり部会（いじめと心のアンケート分析） ・研究推進委員会（各分掌の進捗状況の確認） ・授業参観週間（互いに授業公開し研究を深める）	参加者6人 参加者8人 参加者全教職員
10月16日 11月	※第2回Q-U調査 ・研究推進委員会（各分掌の進捗状況の確認）	参加者6人 参加者8人
11月12日	※いじめと心のアンケート ・規範づくり部会（いじめと心のアンケート分析） ・文化祭でのHIV感染症・エイズへの偏見解消啓発展示	参加者6人 参加者レッドリボンサークル 参加者8人
11月12日 12月	・研究推進委員会（各分掌の進捗状況の確認） ※第2回学校評価アンケート ※授業アンケート・6項目アンケート	参加者8人
12月1日	※いじめと心のアンケート ・規範づくり部会（いじめと心のアンケート分析） ・「世界エイズデー街頭キャンペーン」への参加	参加者6人 参加者レッドリボンサークル 参加者8人
12月11日 12月17日	・研究推進委員会（各分掌の進捗状況の確認） ・第2回校内授業研究会（2年英語科） 外部講師：岐阜大学教育学部 巽徹 教授 鳥取県教育委員会人権教育課 影山知也 課長 鳥取県教育委員会人権教育課 西垣卓宏 係長 鳥取県教育委員会人権教育課 本庄大志 指導主事 鳥取県教育委員会東部教育局 平野靖博 社会教育主事 鳥取市教育委員会学校教育課 福田美奈 指導主事	参加者全教職員、県教委4人、市教委1人、校区小学校教員4人
12月18日 12月26日 ” 1月	・校内研修会（アンケート結果の共通理解） ・分掌部会（Q-U調査分析・学校評価アンケート分析） ・教科会（授業アンケート分析）	参加者全教職員 参加者全教職員 参加者全教職員
1月20日 1月30・31日 1月28日 ～2月8日 2月	※いじめと心のアンケート ・規範づくり部会（いじめと心のアンケート分析） ・研究推進委員会（アンケート結果について） ・WYSH教育 ・授業参観週間（互いに授業公開し研究を深める）	参加者6人 参加者8人 対象：3年生徒127人 参加者全教職員
2月10日	※いじめと心のアンケート ・規範づくり部会（いじめと心のアンケート分析） ・人権教育研究推進事業報告会 ・第2回「人権教育研究推進事業」連絡協議会 ・研究推進委員会（取組の成果とまとめ）	参加者6人 参加者8人
2月19日	・校内研修会（研究のまとめ、次年度に向けて）	参加者全教職員

(3) 人権教育に係る年間指導計画（別添）